

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	簿記	2	3	総合探究科（選択）

使用教科書	副教材等
新簿記（実教出版）	最新段階式簿記検定問題集 全商3級（実教出版）

科目の目標
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	簿記に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ実務に即した知識と技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	簿記をはじめとした様々な知識、技術を活用し、取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することに伴う課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、簿記に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら簿記について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他社と信頼関係を構築して積極的に関わり、記帳、決算など適正な取引の記録と財務諸表の作成に責任をもって取り組もうとしている。
評価方法	
<p>①知識・技能…定期考査、小テスト</p> <p>②思考・判断・表現…定期考査、小テスト</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度…振り返りシート、授業への取り組み</p>	

学習計画						
月	項目	単元	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第1編 簿記の基礎	簿記の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味・目的を明らかにし、記帳の重要性を理解させる。 簿記の種類、前提条件など簿記のアウトラインを理解させて、簿記の学習の心がまえを養う。 	○		
		資産・負債・純資産と貸借対照表	<ul style="list-style-type: none"> 資産・負債・純資産（資本）の意味を明らかにし、これらの相互関係を理解させる。 貸借対照表の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 純損益を計算する方法（財産法）を理解させる。 各種の等式を理解させる。 		○	
		収益・費用と損益計算書	<ul style="list-style-type: none"> 収益・費用の意味を明らかにし、純損益を計算する方法（損益法）を理解させる。 損益計算書の意味・形式などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 等式を覚えさせる。 			○
		取引と勘定	<ul style="list-style-type: none"> 取引により、資産・負債・資本が増減することを理解させる。 勘定・勘定科目・勘定口座などの意味を理解させる。 勘定口座の形式を明らかにする。 勘定の記入法に習熟させる。 取引を分解して、勘定に記入する方法を理解・習熟させる。 貸借平均の原理を理解させる。 	○		
		仕訳と転記	<ul style="list-style-type: none"> 仕訳の意味を明らかにし、各種の取引の仕訳に習熟させる。 仕訳を勘定口座に転記する方法を理解させ、習熟をはかる。 	○		
		中間試験		○	○	○
5	第2編 取引の記帳（その1）	仕訳帳と総勘定元帳	<ul style="list-style-type: none"> 仕訳帳の形式・記入法を理解させ、記帳に習熟させる。 総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記のしかたに習熟させる。 	○		
		試算表	<ul style="list-style-type: none"> 試算表の役割・種類・それぞれの特徴などを明らかにし、その作り方に習熟させる。 		○	
6		現金・預金などの取引	<ul style="list-style-type: none"> 現金に関する記帳法と現金出納帳の記帳法について理解させる。 現金過不足の処理法を理解させる。 	○		
		商品売上の取引	<ul style="list-style-type: none"> 分記法の復習から3分法による商品売上の記帳法を理解させる。 			○
		掛け取引	<ul style="list-style-type: none"> 仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳法を明らかにし、その記帳の方法に習熟させる。 商品有高帳については、先入先出法と移動平均法を理解させる。 売上原価を計算する方法について明らかにする。 掛け取引の意味を明らかにし、売掛金勘定と買掛金勘定の記帳法を理解させる。 人名勘定の意味を明らかにする。 売掛金元帳と買掛金元帳の役割を明らかにし、その記帳に習熟させる。 売掛金・買掛金以外の各種の債権・債務について、その記帳法や違いなどを理解させる。 各種の債権・債務の記帳に習熟させる。 		○	
		その他の債権・債務の取引（その1）	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産に関する記帳法を理解させる。 固定資産台帳の役割を明らかにする。 			○
		固定資産の取引	<ul style="list-style-type: none"> 固定資産の意味と種類を明らかにし、固定資産に関する記帳法を理解させる。 固定資産台帳の役割を明らかにする。 			○
		販売費と一般管理費、税金の取引	<ul style="list-style-type: none"> 販売費及び一般管理費の意味と記帳法を理解させる。 販売費及び一般管理費元帳の役割を明らかにする。 	○		

	期末試験			○	○	○
7	第3編 決算(その1)	決算整理(その1) 8桁精算表	<ul style="list-style-type: none"> ・決算整理の意味とその必要性を理解させる。 ・3分法による商品売買に関する勘定の整理、貸し倒れの見積もり、減価償却の処理法を理解させ、その記帳に習熟させる。 ・8桁精算表の意味を明らかにし、その作成に習熟させる。 		○	
9	第2編 取引の記帳(その1)	帳簿決算 現金・預金などの取引 商品売買の取引 掛け取引 その他の債権・債務の取引(その1)	<ul style="list-style-type: none"> ・帳簿決算の意味とその必要性を理解させる。 ・総勘定元帳の締め切りと、繰越試算表・貸借対照表・損益計算書の作成に習熟させる。 ・現金勘定、当座預金勘定に関する記帳法と現金出納帳、当座預金出納帳の記帳法と現金過不足の処理法について習熟をはかる。 ・小口現金のシステムを理解させ、その記帳法と記帳の習熟をはかる。 ・仕入帳・売上帳・商品有高帳の役割と記帳法を明らかにし、その記帳の方法に習熟させる。 ・売上原価を計算する方法について明らかにする。 ・掛け取引の意味を明らかにし、売掛金勘定と買掛金勘定の記帳法を理解させる。 ・売掛金元帳と買掛金元帳の役割を明らかにし、その記帳に習熟させる。 ・売掛金・買掛金以外の各種の債権・債務について、その記帳法や違いなどを理解させる。 ・各種の債権・債務の記帳に習熟させる。 		○	
10	中間試験			○	○	○
	第4編 記帳の効率化と会計帳簿	会計帳簿 伝票の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・いままで学んだ帳簿の種類をあげ、分類させてみる。 ・分課制度と帳簿組織との関連について理解をはかる。 ・証ひょう・伝票の意味とその役割を明らかにする。 ・伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを理解させ習熟をはかる。 	○		
	第5編 取引の記帳(その2)	手形の取引 その他の債権・債務の取引(その1) 有価証券の取引 個人企業の資本の取引 個人企業の税金の取引 最近の実務に広がる取引	<ul style="list-style-type: none"> ・手形の種類を明らかにする。 ・約束手形のしくみと記帳法を理解させ、各種取引の記帳法について習熟させる。 ・手形記入帳の役割と記帳法を理解させる。 ・手形の裏書譲渡・割引・書き換え・不渡りの意味を明らかにし、その記帳法を理解させる。 ・受取手形・支払手形以外の手形債権・債務や受取商品券について、その記帳法や違いなどを理解させる。 ・有価証券の意味と計算のしかた、買入れたとき、売却したときの記帳法を理解させる。 ・個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳法を理解させる。 ・引出金勘定を用いた場合の記帳法を理解させる。 ・所得税と住民税の納付は資本の引き出しにあたることを説明し、その記帳法や個人企業の税金の意味を理解させる。 ・消費税の意味と記帳法を理解させる。 ・クレジット売掛金と電子記録債権・電子記録債務の意味を明らかにし、理解させる。 		○	
11	第6編 決算(その2)	決算整理(その2)	<ul style="list-style-type: none"> ・費用・収益の繰り延べ・見越しや切手・はがきなどの未使用分の意味とそれぞれの記帳法を理解させ、習熟をはかる。 		○	
	期末試験			○	○	○
12	第6編 決算(その2)	決算整理(その2)	<ul style="list-style-type: none"> ・減価償却の間接法、有価証券の評価替えなどの記帳法を理解・習熟させる。 ・決算時に現金過不足・当座借越がある場合の記帳法を理解・習熟させる。 ・費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを含めた財務諸表の作成について習熟させる。 	○		
1	1年間の振り返り				○	
	学年末試験			○	○	○
2						
3						